

第2章 江戸川らしさの発見

第1節 江戸川区の現況

1 本区の概要

(1) 本区の位置

本区は東京都の最東端に位置し、面積が 49.09km² と 23 区で4番目の広さを有し、東西約8km、南北約13kmの広がりがあります。

東に江戸川・旧江戸川、西に荒川・中川の大河川が流れ、南は東京湾に臨む、水辺に囲まれた都市となっています。

図 2-1 東京 23 区図



(2) 人口・世帯数

平成 22 年 1 月の住民基本台帳によると、本区の人口は約 67 万人、世帯数は約 30 万世帯で、今なお増加傾向にあります。

また、本区の平均年齢が 41.7 歳、年齢別人口構成比は年少人口が 14.6%と、東京都 23 区の平均に比べて若年層が多いのが特徴です(表 2-1)。合計特殊出生率が 1.38 人(平成 20 年人口動態調査)と 23 区平均の 1.04 人に比べて高くなっています。

表 2-1 本区の人口と 23 区の比較

項目	江戸川区	23 区平均
人口	670,269 人	—
世帯数	297,655 世帯	—
人口密度 (/km ²)	13,074 人	13,670 人
平均年齢	41.7 歳	43.8 歳
年齢別人口構成比	年少人口	14.6 %
	生産年齢人口	67.2 %
	老年人口	18.2 %
		11.2 %
		68.5 %
		20.2 %

出典：平成 22 年 1 月住民基本台帳

(3) 気候

本区の大気観測データを測定している 3 局(図 2-2)の年間平均気温は 16.6 度です(図 2-3)。東京地点(中央区)との各月の気温差は平均 0.3℃低く、特に 8 月は 0.5℃以上の差があり、涼しい環境が形成されています。また、区内 3 局の年間平均風速は 2.4m/s(図 2-4)で、風通しの良いまちが形成されています。

図 2-2 区内観測点の位置



図 2-3 月別平均気温(平成 19 年)

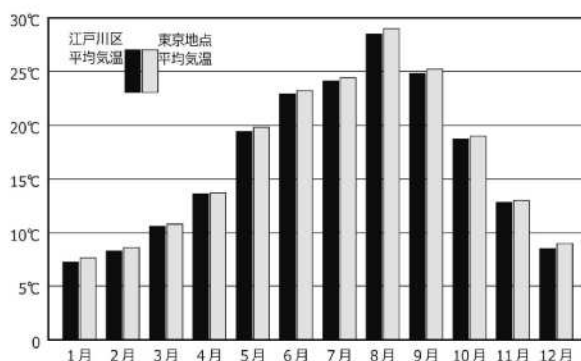
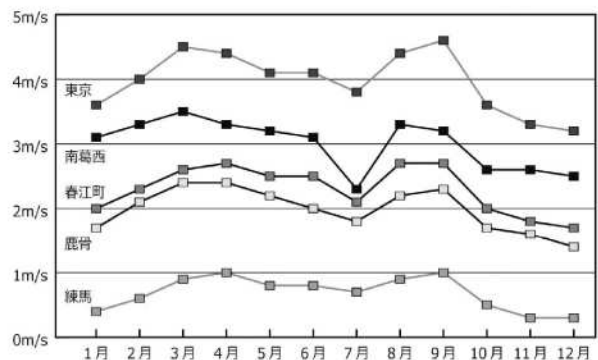


図 2-4 月別平均風速(平成 19 年)



出典：気象庁気象統計情報・江戸川区大気観測データ

(4) 主な歴史

本区は弥生時代後期あたりに人が住み始めたといわれ、以来現在に至るまで開発や様々な取り組みが行われてきました。

●本区の歴史は約 1800 年前から

古代、海の底にあった本区は、約 3000 年前から次第に陸地ができはじめました。そして、約 1800 年前の弥生時代後期に、小岩に人が住み始め、約 1600 年前の古墳時代には、半農半漁の生活を営む人々が住んでいたと考えられています。



江戸川区郷土資料室に展示している出土した土器(上小岩遺跡)

●鎌倉時代の地名

平安時代の末頃から鎌倉時代にかけて、本区とその周辺は「葛西御厨」という伊勢神宮の荘園でした。

応永五(1398)年の葛西御厨注文によると、下小岩・長嶋・二江・鹿骨・今井・東一江・上小岩・上篠崎・下篠崎・松本・東小松河・一色・西小松河・蒲田・西一之江・中曾根・下平井・荒張という18の集落の名前が記録されています。これらの地名の多くは現在も使われています。



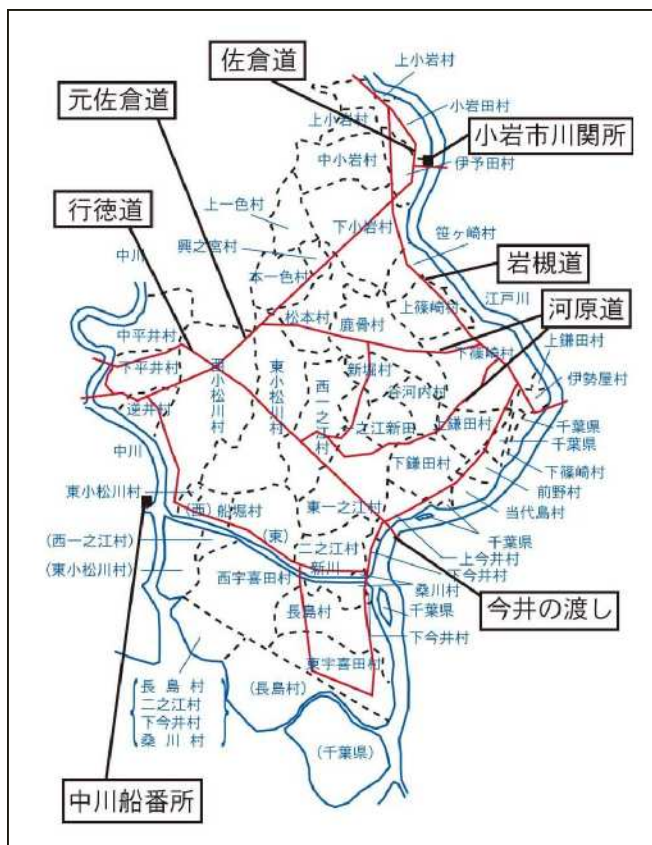
昭和 27 年頃の一里塚
(東小岩七丁目)

●農村風景の中に、旅人と舟が行き交うにぎわい

16 世紀になると北条氏がこの地を治め、次第に人口が増えて耕地も広がりました。徳川家康が関東へ来て江戸の城下町づくりが始まると、本区のほとんどが幕府領となり、宇喜新田、伊豫新田、一之江新田など、新田開発が盛んになりました。

また、元佐倉道、岩槻道、行徳道などの街道が走り、江戸川や新川は水運の大動脈となって多くの舟と人でにぎわっていました。

図 2-5 江戸時代の主な道路と関所



●蓮根・野菜・花卉・海苔・貝、和傘などの産業の多様化

明治時代は、蓮根、野菜や花卉、葛西浦では海苔や貝の養殖が盛んに行われるようになりました。小岩では「小岩は傘でたつ。」とまで言われるほど、和傘の特産地として知られていました。

明治27年には現在のJR総武本線が開通し、昭和7年の江戸川区が誕生した時は、人口も10万人になっていました。



和傘の乾燥風景(小岩)

●太平洋戦争や台風による大きな被害

昭和16年に日本が太平洋戦争に突入し、戦争が激しくなるにつれ、東京も空襲を受けるようになりました。子どもたちは空襲にそなえて、山形県鶴岡市などに集団疎開しました。昭和20年3月の東京大空襲では、小松川・平井一带が焼失するなど大きな被害を受けました。また、昭和22年、24年と続けて大規模な台風被害を受け、これを契機にさらなる堤防強化や下水道整備が進みました。



昭和24年のキティ台風による被害の様子(平井駅)

●高度経済成長とともに進む都市開発

昭和30年代からの日本経済の高度成長にともない、人口が急増し、急速な都市化の進展により、昭和40年頃には、河川の水質汚濁や大気汚染などの都市環境の悪化が深刻な問題となりました。

このような問題を解決するため、全国で初めての親水公園を整備するほか、土地区画整理事業、海面埋立事業等による道路の整備、公園や街路樹などの緑の充実を図り、安心して安全なまちづくりを進めてきました。その結果、都心へアクセスしやすい立地に加え水と緑豊かな都市基盤の充実などにより、現在では67万人が暮らす都市に発展しました。



海面埋め立て前の葛西海岸の様子



現在の本区の全景

「江戸川区の史跡と名所」、「江戸川区郷土資料室解説シート」より抜粋・一部加工

2 自然的条件の整理

(1) 地形・河川

本区は、江戸川の河口に広がる三角州の上であり、東に江戸川、旧江戸川、西に旧中川、荒川及び中川、南に東京湾と、三方を河川と海に囲まれ、区面積の約7割がゼロメートル地帯と呼ばれる低地となっています。

区内には7つの河川が流れ、東京湾からの海風を陸地に運ぶ動脈として、風の道の機能を担っています。この豊かな水辺の環境により、他区に比べてヒートアイランド現象が緩和されています(図2-5)。

(2) 緑地・樹木

区の緑地面積は、803.14haで、緑被率(区全体面積に対する緑地面積の割合)は、16.4%となっています(図2-6)。公園内の緑(樹木・草地)や、宅地内の樹木が占める割合が高くなっています。増加率をみると、道路や公園の緑は増加していますが、農地や草地の面積は減少傾向にあります。

樹木本数は、約577万本(平成21年4月)であり、約30年前の約120万本(昭和47年)に比べて4倍以上に増えています。また、大木も多く分布し、保護樹として登録されている樹木が397本(平成21年4月)あります。

小松川千本桜、小岩菖蒲園やフラワーガーデンなどの花の名所も多く、花と緑が豊かなまちなみが形成されています。

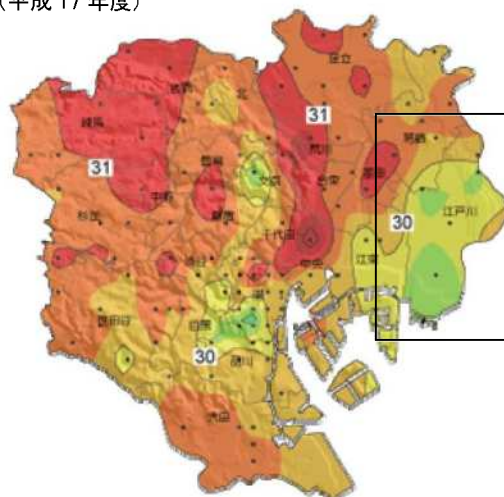
(3) 動植物

本区は、海水(塩分が多く含まれた水)、汽水(淡水と海水が混じり合った水)、淡水(塩分を含まない水)の3つの異なる水域があります。

この多様な水域と、葛西臨海公園の鳥類園や河川敷のアシ原、河川の水を活かした親水公園や親水緑道、区民の手により創出されたビオトープなどの生き物に配慮した公園・緑地等の保全・整備により、多様な種類の生き物が見られます。

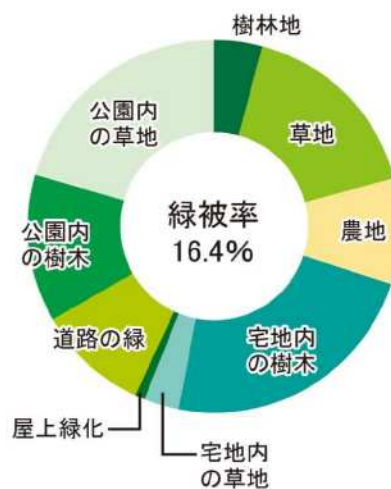
河川敷にはミゾコウジュやタコノアシなどの希少な在来植物、まちなかで身近にみられるスズメやシジウカラをはじめ、チョウゲンボウ、ホオジロやセイタカシギなど、年間を通じて50種以上の野鳥や、トビハゼ、テナガエビやウナギなどの生物もみられます。

図2-5 23区の日最高気温平均値の比較
(平成17年度)



出典:エコタウンえどがわ推進計画
(平成20年2月)より

図2-6 江戸川区の緑被率(平成18年度)



出典:「江戸川区の土地利用」江戸川区
(平成19年3月)



タコノアシ



シジウカラ



セイタカシギ



トビハゼ

図 2-7 水と緑の現況図



3 社会的条件の整理

(1) 歴史・文化

1) 寺社・寺社集積地

善養寺や浅間神社、平井聖天など、寺社が区内各地に分布しています。特に、小岩市川の渡しのあった北小岩三丁目、古川沿いの東葛西二丁目、小松川境川沿いの東小松川には、寺社が集積する趣ある景観が形成されています。



北野神社(北小岩三丁目)

2) 有形文化財・天然記念物等

かつて小岩市川の渡しにあった常燈明石造道標などの有形文化財、区内各所に多く見られる富士塚や庚申塔などの有形民俗文化財、一之江名主屋敷などの史跡、善養寺影向の松や松本弁天の臥竜の松といった天然記念物など、区の文化財に指定・登録している文化財は 249 件(平成 22 年 4 月現在)あります。このほか、旧小松川閘門や旧海岸堤防の一部など、歴史を感じる資源が多く残っています。



浅間神社ののぼり祭り(上篠崎二丁目)

3) 伝統行事

浅間神社ののぼり祭や雷いかづちの大般若、葛西大師まいりなどが今も地域で受け継がれています。

4) 遺跡

上小岩遺跡は、大量の土器を出土しており、集落の形成されていた可能性もあります。

5) 旧道

江戸時代における主要道路として、逆井の渡しから小岩に通ずる元佐倉道、五街道に匹敵する街道として重要視されていた佐倉街道(現千葉街道)、行徳塩の輸送路であった行徳道(現今井街道)、岩槻慈恩寺への参詣路としてにぎわった岩槻道(現篠崎街道)などがありました。これらの旧道は、現在も本区を支える重要な道となっています。

6) 水路跡

かつて区内には全長 420km にも及ぶ水路や中小河川がありました。しかし、都市化の進展とともに環境悪化が進み、埋立や暗渠化されてしまいましたが、現在は親水公園や親水緑道、緑道など全長 27km が整備され、土地の歴史を残す貴重な資源となっています。

図 2-8 文化財数(平成 22 年 4 月)

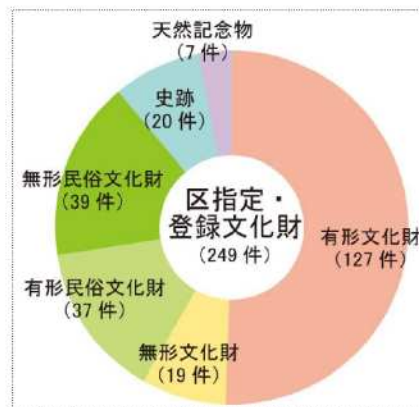
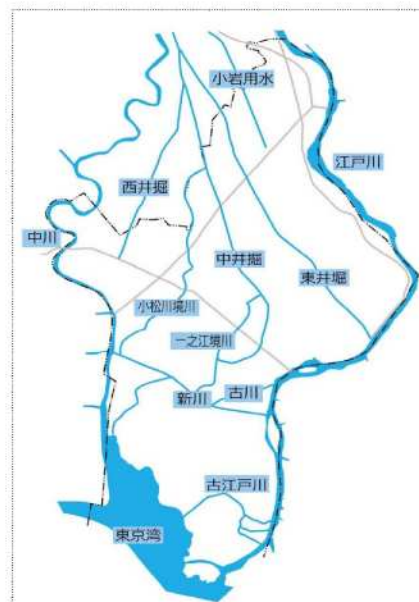


図 2-9 明治期の主な水路位置図



出典:「まちの変遷とまちづくりの実績」
江戸川区(平成 9 年 7 月)

図2-10 歴史・文化資源現況図



(2) 都市施設・土地利用等

1) 都市施設等

多様なまちづくり事業により、公園や道路、公共建物など、都市施設が充実しています。

●**まちづくり事業**: 土地区画整理事業、市街地再開発事業や地区計画など、様々なまちづくり事業を実施し、良好なまちなみが形成されています。

●**幹線道路**: 本区を東西に結ぶ京葉道路や葛西橋通り、南北に結ぶ環七通りや船堀街道など、多数の幹線道路が整備されています。

●**鉄道**: 戦前より開通していた JR 総武本線から近年開通した都営地下鉄新宿線など、東京都心と千葉県を結ぶ5つの鉄道路線があります。

●**レクリエーション施設**: 公園・児童遊園等は、昭和45年には、98園、総面積約38haでしたが、平成21年には、439園、総面積約758haとなり、23区内一の面積を誇っています。これらのオープンスペースを活かし、健康の道や野球場、サイクリングロードなど、多様なレクリエーション施設が整備されています。

●**公共建物**: 地域活動の拠点となるタワーホール船堀、総合文化センター、しのぎき文化プラザ、各地域の事務所やコミュニティ会館、小中学校などの公共建物が充実しています。

●**水辺の施設**: 荒川ロックゲート、江戸川水閘門、今井水門などの水閘門や、新中川のシンボル橋を含めて110橋にも及ぶ橋梁など、水辺の施設が多く点在しています。

●**身近な道**: 身近な道づくりとして、安心して歩ける道、自転車歩行者専用道路、ポケットパークの整備などが充実しています。

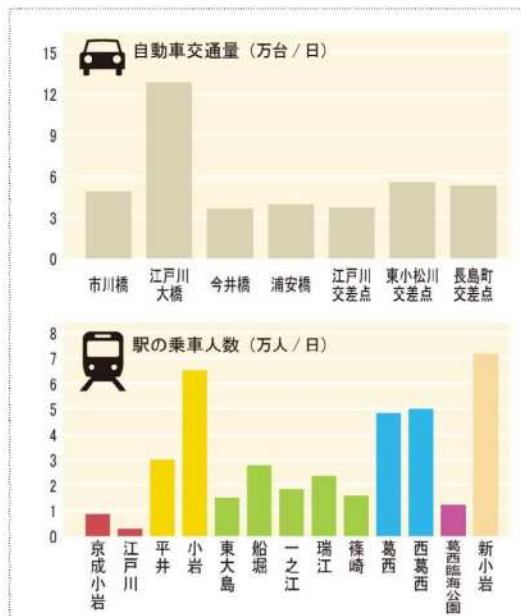
2) 土地・建物

宅地の約6割が住宅用地となっている、住宅地が主体のまちなみが形成されています。

建物の9割以上が3階建て以下となっており、区全域に低層のまちなみが形成されています。

3階建ての建物や利用建ぺい率の増加、専用独立住宅の平均敷地面積の減少などにより、ゆとりある空間が減少傾向にあります。

図 2-11 道路・鉄道交通量



出典:平成20年版統計江戸川

図 2-12 公園・児童遊園面積の推移

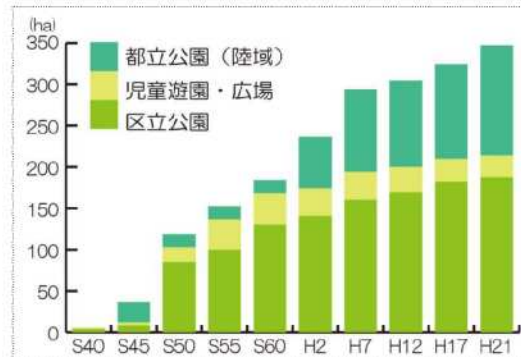
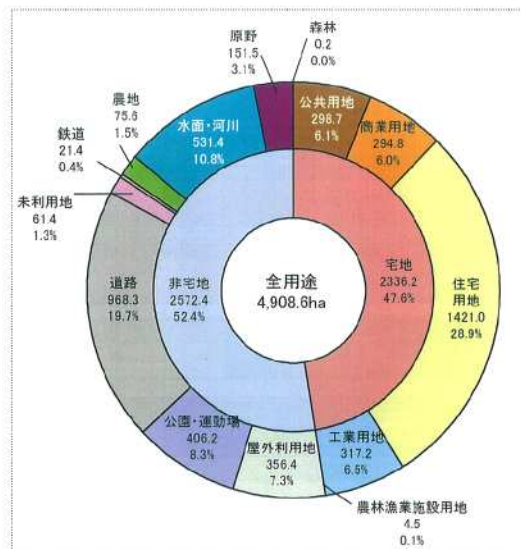


図 2-13 土地利用の現況



出典:「江戸川区の土地利用」江戸川区 (平成19年3月)

図2-14 都市施設現況図



(3) 産業・イベント等

1) 商業

駅前を中心に、幹線道路沿道や団地内など、多くの商店街が形成されています。最も大きい商店街の小岩駅前では、四季を通じて様々なイベントなどが開催されています。



小岩フラワーロード(南小岩六・七丁目)

2) 工業

かつて江東工業地帯の外縁として工場が多く分布していましたが、現在は減少傾向にあります。機械や金属などの工場が集積する松江地域や小松川テクノタウンなどでは、今なお「ものづくり」が行われています。



工場が集積地(松江四丁目)

3) 農業 (小松菜・花卉)

鹿骨地域を中心に、主に小松菜と花卉が生産されています。小松菜の収穫量は、日本一、二を競い、花卉は夏の風物詩として有名な入谷の朝顔市の約7割を生産しています。区内で唯一残っている水田では、しめ縄がつくられています。



みとらずの稲田(下篠崎町)

4) 金魚養殖

戦前の最盛期に23件あった養殖業者も、現在は2件になりましたが、今なお東京都淡水魚養殖漁業協同組合の生産量・販売量とも3割近くを占めています。



金魚養殖(一之江六丁目)

5) 屋形船

江戸屋形船事業組合に17件が登録しており、江戸川、旧江戸川沿いに船宿が分布しています。江戸川に伝わる伝統漁法「投網」を残すため船宿の有志による江戸投網保存会が発足し、5月に江戸川今井橋前にて「お江戸投網まつり」を実施しています。



お江戸投網まつり(今井水門付近)

6) 伝統的な地域産業

江戸川区無形文化財・伝統技術に指定・登録されているものは、江戸被切子やつりしのぶなど、19件あり、このほかにも多くの伝統的な地域産業が残っています。現在、えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトなど新たなブランド化の取り組みが始まっています。



つりしのぶ(松島一丁目)

7) 催し・イベント

江戸川区民まつり、小岩菖蒲園まつり、江戸川花火大会や金魚まつりなど年間を通じて様々な催し・イベントがあります。特に桜やバラ、菖蒲など、区内には花の名所が多く、花に関するイベントが多く開催されています。



小岩菖蒲園まつり(北小岩四丁目)

(4) 区民活動

1) 町会・自治会活動

昭和30年代からの高度成長期に起きた様々な環境問題に対し、区と区民が一丸となってまちの美化活動、緑化運動を進め、現在の良好な環境をつくり上げてきました。現在でも当時の運動の中心だった町会、自治会などから組織される、環境をよくする地区協議会、親水公園を愛する会などの活動が行われています。

2) ボランティア活動

自治会などの組織とは別に、気の合った仲間同士や個人単位で区内のいたるところでボランティア活動が展開され、区内の公園、河川敷、歩道植栽帯などの公共空間で清掃活動、樹木や草花の手入れ、プレーパークの運営、ビオトープ・花壇づくりなどを行っています。

区は、こうした活動の支援を目的に、アダプト登録制度※をつくり、活動相談をはじめ清掃器具の支給やごみ処理の支援などを行っています。

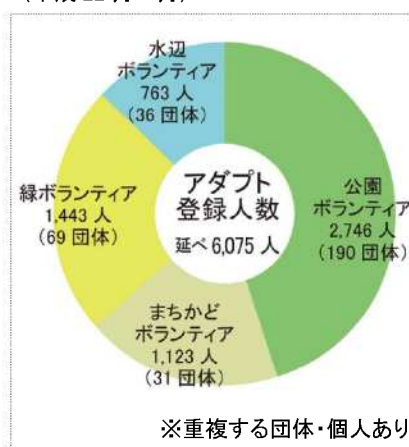
また、アダプト活動交流会が年に1回開催され、それぞれのボランティア活動の報告や交流が行われています。

現在、アダプト制度登録者は合計約6,000人で今も増え続けています。

図2-16 町会・自治会数
(平成21年12月)



図2-17 アダプト制度登録人数
(平成22年1月)



小松川境川親水公園を愛する会による清掃活動



環境をよくする地区協議会(葛西地域)



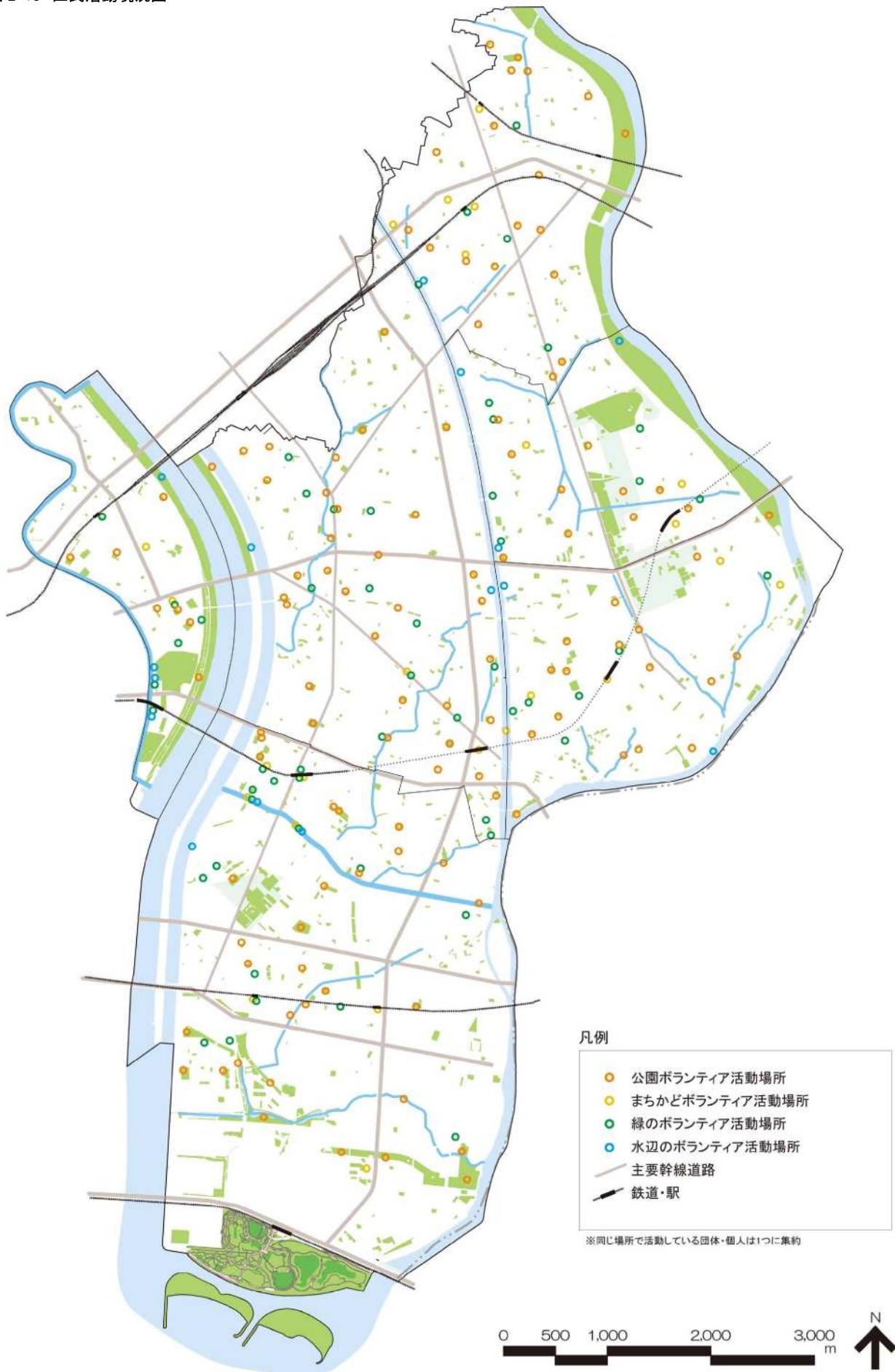
キッズボランティアによる花植え活動



河川敷の清掃活動

※アダプト登録制度とは、道路や公園、河川などの公共空間を地域住民や企業などが主体となって、管理していく制度です。直訳すると「養子縁組する」という意味です。

図 2-18 区民活動現況図



4 区民意識

平成20年5～6月に実施した、第28回江戸川区民世論調査をもとに、景観に関する区民意識を以下にまとめます。

(1) 本区の現状について

本区の現況を総合的に見た場合、「満足」と「やや満足」を合わせると約4割、「ふつう」も約4割となっています(図2-19)。

項目別に見た場合、「公園・水辺の整備」や「緑化の推進」の満足度が高い傾向にあり、「街の景観」については、「ふつう」が約5割を占めています(図2-20)。

図2-19 総合的満足度

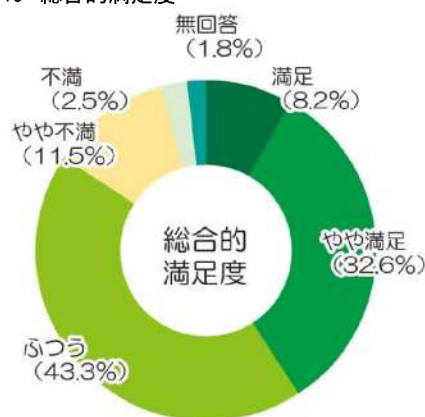
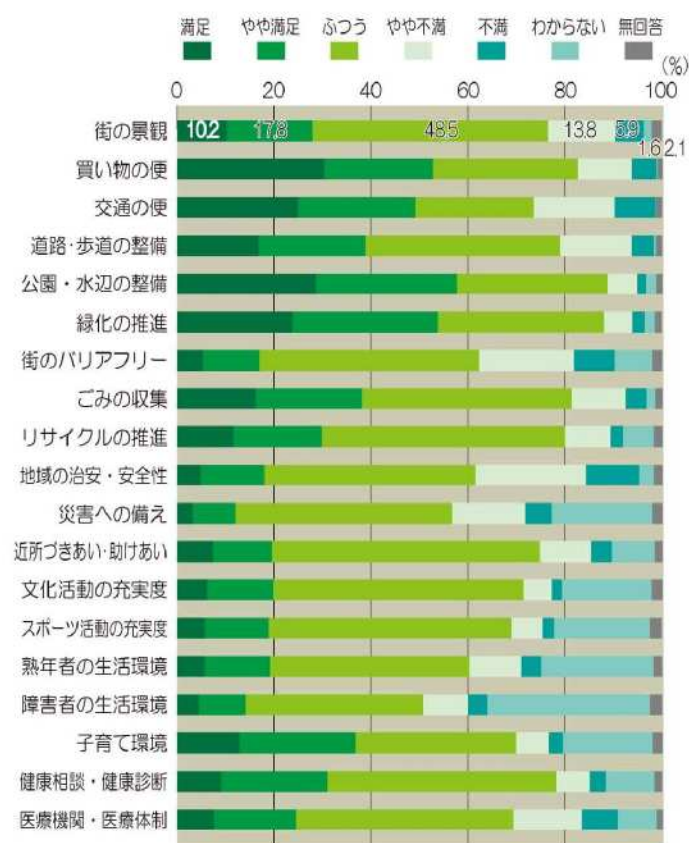


図2-20 区の現状に対する項目別満足度



(2) 本区の景観について

日常生活の中で区内の魅力的だと思う景観として、「公園や農地などの緑の景観」や、「海や川などの水辺の景観」が多くあげられました(図2-21)。一方で、景観を最も損ねているものとして、「電柱や鉄塔、電線」が多くあげられました(図2-22)。

図2-21 魅力的だと思う景観

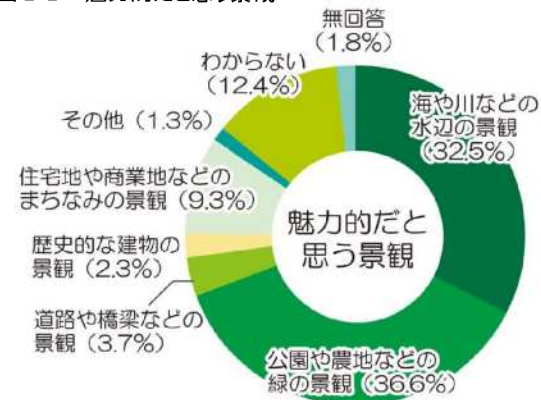
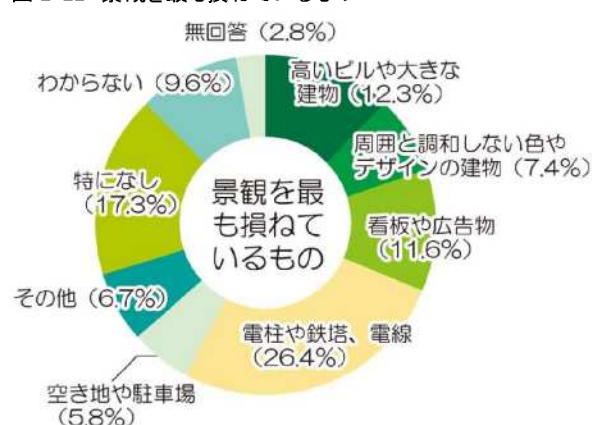


図2-22 景観を最も損ねているもの



(3) 景観づくりにおけるルールの必要性

良好な景観づくりのために、建物の高さや色などについて具体的なルールをつくり、誘導していくことが「必要である」、「どちらかといえば必要である」との回答が半数以上ありました(図 2-23)。また、家やビルを建てる時の具体的なルールとして、「建物の高さや大きさを制限する」、「道路と建物の間に空間をつくる」及び「敷地内や建物の屋上を緑化する」については、それぞれ全回答者の4割以上が受け入れられると答えています(図 2-24)。

図 2-23 ルールの必要性

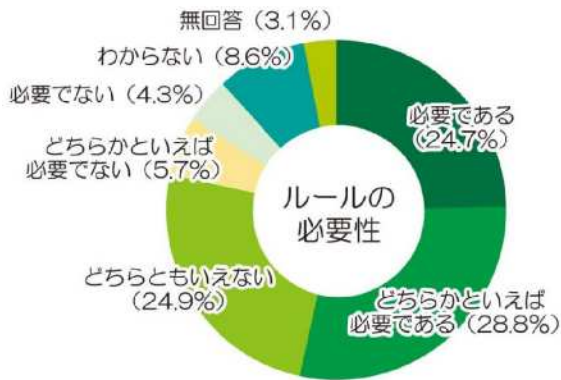


図 2-24 受け入れられる具体的なルール



(4) 地域活動への参加について

区では、「保育ママ」、「すくすくスクール」、「安全・安心パトロール」など様々な事業や取り組みが町会・自治会やボランティアなどにより展開されています。これらの地域活動に「現在参加している」及び「過去に参加したことがある」との回答は、全体の約2割程度でした(図 2-25)。

地域活動への参加意向は、「ぜひ参加したい」、「きっかけや条件が整えば参加したい」、「(仕事や健康上の理由などにより)参加したいが、できない」との回答は、全体の約6割以上でした(図 2-26)。

図 2-25 地域活動への参加経験

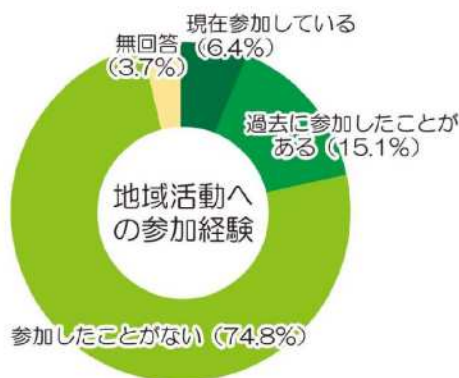
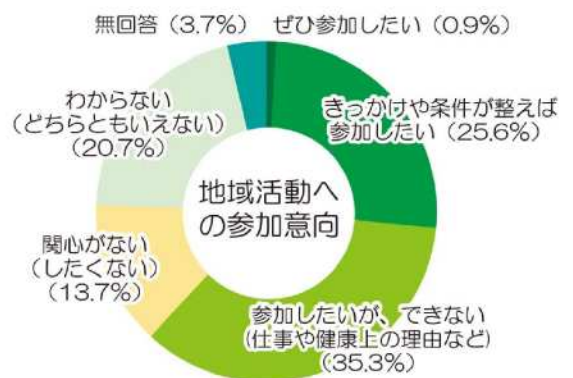


図 2-26 地域活動への参加意向



(5) 永住意向について

「今後も江戸川区に住み続けたいか」との問いに、「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」合わせた回答が、全体の7割以上を占めています(図 2-27)。

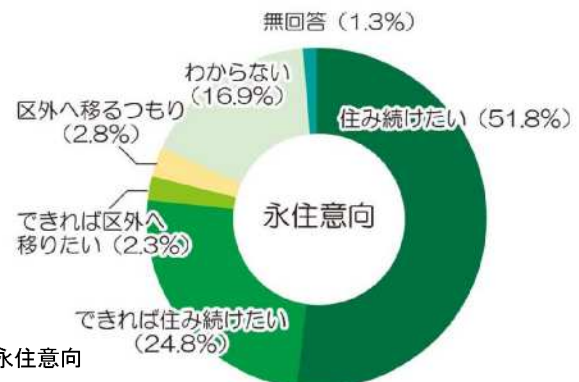


図 2-27 永住意向

第2節 江戸川らしさとは

1 区民が発見した「江戸川らしさ」

本区には、地域ごとに様々な景観要素が重なり合って形成される、多様な地域の特性「江戸川らしさ」があります。

本区で暮らす人々が日頃感じる「江戸川らしさ」から、本区の景観について考えていくため、本計画を策定するにあたり景観まちづくりワークショップを開催し、多様な「江戸川らしさ」を発見しました。

これらの「江戸川らしさ」には、目に見えるものばかりではなく、音や匂い、雰囲気などの五感を使って感じるものも含まれます。

●景観まちづくりワークショップ

区民と区職員がともに本区の景観を考える場として、平成20年度より開催し、まち歩き等を通じて、江戸川らしさを見つけたり、今後の景観のあり方について、話し合いました。



2 本区の景観を構成する要素

「江戸川区の現況」と、「区民が発見した江戸川らしさ」から、本区の景観を構成する主要な要素を5つにまとめました。本区の景観は、これらの要素が重なり合って形成されています。

図2-28 景観を構成する要素



3 要素ごとの江戸川らしさ

本区の景観を構成する要素ごとに、景観特性と今後の課題、区民が発見した江戸川らしさをまとめます。

(1) 水と緑



三方が河川、海の水域に囲まれ、高低差のほとんどない地形的特性となっています。公園や河川敷などの広大なオープンスペース、全域に整備されている親水公園や親水緑道など、水と緑を基盤とした豊かでのびやかな景観を形成しています。また、水と緑は風の道をつくり、ヒートアイランド現象が緩和されるなど、住み良い環境をつくりだしています。公園面積や街路樹本数は23区第一位を誇り、サクラやシヨウブ、バラなどの数多く分布する花の名所や、多様な生き物など、区民が身近に緑や自然とふれあう機会が数多くあるのが特徴です。

景観形成における課題

- ・減少しつつある大木や農地等の保全
- ・風の道を形成する水と緑豊かなまちの保全、創出
- ・より区民が水と緑と親しめる環境、機会づくり
- ・既存の水と緑を活かしたネットワークの形成

区民が発見した江戸川らしさ



(2) 歴史・文化



区内各所に遺跡や寺社、伝統行事、大木などの歴史的・文化的資源が点在しており、その多くが都や区の文化財として保全されています。

また、江戸と房総を結んでいたかつての旧道や、区内 420km にもおよんだ用水路跡、地名、地域の人々によって支えられている伝統行事なども歴史を今に伝える資源となっています。かつて使われていた水閘門の遺跡など、水辺の都市ならではの歴史的・文化的資源が多いのも特徴です。

景観形成における課題

- ・まちの歴史を知る機会の拡充
- ・歴史的・文化的資源とその周辺が一体となった景観の保全・創出
- ・すでに失われてしまった歴史的・文化的資源の再生

区民が発見した江戸川らしさ

昔の地名が残っている景観
鹿見塚

- ・鹿骨
- ・小岩
- ・下鎌田 など

伝統行事のある景観
浅間神社のぼり祭り

- ・浅間神社
- ・鹿島神社 など

寺社のある景観
最勝寺 (日黄不動)

- ・大雲寺
- ・善養寺
- ・日黄不動
- ・富士塚 など

史跡のある景観
旧小松川閘門 (大島小松川公園内)

- ・浅間神社
- ・大雲寺
- ・小岩の渡し跡
- ・旧小松川水門 など

昔の地形が分かる景観
古川親水公園

- ・新田仲町通り
- ・古川親水公園
- ・東井堀親水緑道
- ・旧海岸堤防 など

昔の地形が分かる景観
海岸水門・旧海岸堤防

(3) まちなみ



土地区画整理事業や再開発事業などにより、道路や公園などの都市基盤が充実し、現在は全域が概ね良好な住宅地の景観が形成されています。新しいまちなみの所々に大きな敷地面積をもつ屋敷なども見られ、新旧の建物が混在する住宅地の景観が形成されています。

景観形成における課題

- ・地域特性やシンボルとなる資源を活かしたまちなみの形成とその維持
- ・建物の密度や形状など、ゆとりある市街地の保全
- ・地域のシンボルとなる資源の魅力の向上
- ・電線や鉄塔、屋外広告物などの景観阻害要因の改善
- ・色彩や建物高さなど、周囲と調和するまちなみの形成

区民が発見した江戸川らしさ



- ・小岩駅周辺
- ・平井駅周辺
- ・京成江戸川駅周辺



- ・小岩駅周辺
- ・平井駅周辺
- ・今井街道

- ・鹿骨
- ・東小岩 など



- ・小松川再開発
- ・篠崎駅周辺土地区画整理
- ・清新町・臨海町
土地区画整理 など



- ・辰巳新橋
- ・明和橋
- ・江戸川水門
など

- ・船堀橋・平井大橋
- ・なぎさニュータウン
- ・タワーホール船堀

(4) 活力・にぎわい



本区では、子どもたちが公園やまちかどで元気に遊ぶ声、健康の道などでウォーキングを楽しむ夫婦など、区民の生き生きとした姿が多くみられます。また、四季を通じて様々なイベントや催しが行われおり、多くの人でにぎわっています。

駅前をはじめとした商業や、鹿骨を中心に点在する農業、松江に広がる活気に満ちた工業をはじめ、金魚養殖や屋形船、伝統工芸など水辺に囲まれた本区ならではの産業のある景観が、日々の暮らしの中で活力ある景観として形成されています。

景観形成における課題

- ・人の暮らしの姿を活かした景観づくり
- ・にぎわいを創出する機会や場の拡充
- ・地域産業を活かしたまちの個性の育成

区民が発見した江戸川らしさ



- ・親水施設
- ・大規模公園
- ・公園・児童遊園
- ・小中学校



- ・鹿骨一帯
- ・篠崎一帯
- ・北葛西 など



- ・江戸川花火大会
- ・善養寺菊花展 など

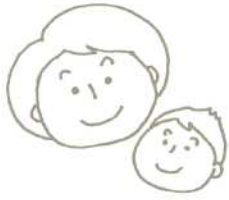


- ・健康の道
- ・大規模公園
- ・駅前商店街



- ・駅前商店街

(5) 暮らしと活動



これまで区民と区は強いパートナーシップにより、多様なまちづくりを進めてきました。現在、町会・自治会を中心とする組織の活動、アダプト活動、環境保全活動など、区民活動が活発で、内容も多岐にわたっています。

景観形成における課題

- ・これまで培ってきた区民と区のパートナーシップの拡充
- ・身近な景観の改善
- ・景観まちづくり活動への意識の向上

区民が発見した江戸川らしさ



- ・町会自治会の地域祭
- ・ポケットパーク



- ・公園ボランティア
- ・街かどボランティア
- ・緑のボランティア



- ・海苔の生産体験
- ・第七葛西小学校の水田など